

正阿弥勝義の残した淡水カメの美術品から伺える岡山における淡水カメ相の遷移

亀崎直樹¹・藤林 真¹・佐藤寛介²

¹ 700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学生物地球学部

² 703-8257 岡山県岡山市北区後楽園1-5 岡山県立博物館

Japanese pond turtle sculpture made in the late 1800.

By Naoki KAMEZAKI¹, Nao FUJIBAYASHI¹ and Hiroshige SATO²

¹ Department of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science, 1-1, Ridaicho, Kita-ku, Okayama, 700-0005, Japan.

² Okayama Prefectural Museum, 1-5, Korakuen, Kita-ku, Okayama, 703-8257, Japan.

日本の本州、九州、四国に広範に分布する淡水ガメ、特にリクガメ上科Testudinoidea については、北米から移入してきたヌマガメ科Emydidae のミシシippアカミミガメ*Trachemys scripta elegans*と、中国や韓国から移入されたとされるようになったイシガメ科のクサガメ*Mauremys reevesii*、日本の固有種である同じくイシガメ科のニホンイシガメ*Mauremys japonica*の3種で構成されている。これら3種のカメの地域別の種組成については、谷口他(2015)などによって明らかにされつつあり、西日本の多くの地域で外来種であるクサガメあるいはミシシippアカミミガメが優占している。クサガメが移入されたのは1700年代の終盤であることが指摘されているし(Suzuki et al.,2011)、また、ミシシippアカミミガメが本格的に輸入されるようになったのは1950年代後半であることから(安川,2002)、日本で池や河川をハビタットとするリクガメ上科の優占種はニホンイシガメからクサガメ、そしてミシシippアカミミガメへと極めて急速に遷移していると考えられる。

しかし、その遷移がどのように行われたのか、さらにはクサガメの外来種説には未だ疑問も残されていることから、その遷移の様相を知るためには埋蔵物や残された美術品による検証も重要である。筆者らは岡山県立博物館に収蔵されている正阿弥勝義しょうあみ かつよし氏の美術品に表現されているカメを観察したのでここに記録として残すこととする。

正阿弥勝義は1832年に岡山県津山で生まれ1908年に京都で没するまで、江戸晩期から明治時代にかけて、彫金師あるいは金工作家として活躍した芸術家である。彼の作品の中には生物を描いたものが数多く含まれているが、その中でもカメを表現したものは少なくない。まず、カメの彫金が2点あり、いずれも種はニホンイシガメであることがその形態から伺うことができる(図1)。両方ともメスの成体と幼体が表現されており、成体の背甲の後方には毛状の藻類のようなものが描かれており、いわゆる蓑亀として表現されている。また、正阿弥の残したスケッチも2冊の製本されたものとして残されており、その中にも数編のカメのスケッチが残されている(図2)。正阿弥が活発に活動していた1800年代後半には既にクサガメは導入されていたと考えられるものの、キールのある背甲などクサガメを想起されるスケッチは皆無であり、また、頭部のサイズの相対的な大きさなどから、すべてニホンイシガメを描いたものと考えられた。

以上の美術品の形態の記録の正確さから、正阿弥が目にしてきたカメはニホンイシガメであることが明らかである。つまり、その当時は岡山においてニホンイシガメが一般的なカメだったと思われる。ところ



図1. 正阿弥勝義作のニホンイシガメの彫金

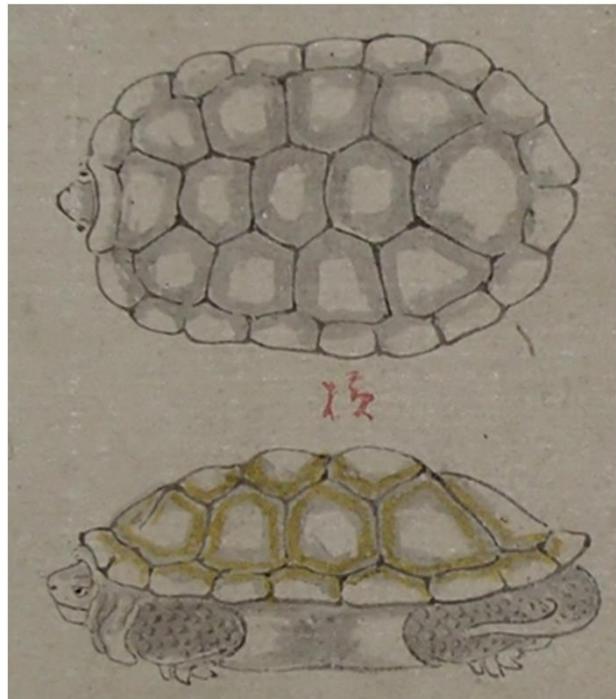


図2. 正阿弥勝義が残したカメのスケッチの1例

が、2015年から2016年にかけて岡山理科大学生物地球学部動物自然史研究室では岡山県の河川やため池の142か所で1487個体のリクガメ上科のカメを捕獲したが、ニホンイシガメは少なく12個体で0.8%しか見つからず、クサガメが64%、ミシシippアカミミガメが25%を占めていた(亀崎他未発表資料)。すなわち、正阿弥が好んでニホンイシガメを題材に選んでいない限り、1800年代後半は岡山地方にはニホンイシガメが優占して生息していたと推察されるが、クサガメはその後の100年程度で個体数を急速に増やし、それとともにニホンイシガメの個体数は大きく減少したと考えられる。このように、淡水域のニホンイシガメを中心としたカメ相はクサガメの侵入によって比較的短期間の間に大きく変化することがうかがわれた。なお、本報の一部はJSPS 科研15K07233 の助成を受けて行われた。

引用文献

- Suzuki, D. H. Ota, H.-S. Oh, and T. Hikida. 2011. Origin of Japanese populations of Reeves' pond turtle, *Mauremys reevesii* (Reptilia: Geoemydidae), as inferred by a molecular approach. *Chel. Conserv. and Biol.* 10: 237-249.
- 谷口真理・上野真太郎・三根佳奈子・亀崎直樹. 2015. 西日本のため池における淡水性カメ類の分布と密度. *爬虫両棲類学会報* 2015(2):144-157.
- 安川雄一郎. 2002. ミシシippアカミミガメ. p.97. 日本生態学会(編) 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京.